

DIGI-SCHMIDT ND

取扱説明書(測定手順書)



セット内容(標準セット)

- ① 表示装置(ディスプレイ)
- ② 本体(シュミットハンマー)
- ③ 収納ケース
- ④ カーボランダムストーン
- ⑤ 接続ケーブル(LEMO)
- ⑥ 転送ケーブル(USB)
- ⑦ 転送ケーブル(シリアル)
- ⑧ 変換コネクター
- ⑨ ストラップ
- ⑩ データ処理ソフト

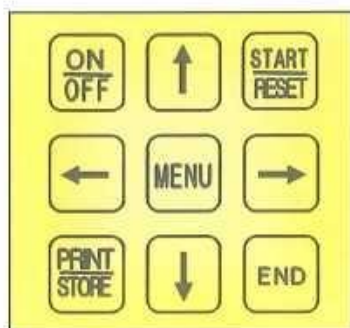


仕様

衝撃エネルギー	2. 207Nm
測定範囲	10~70N/mm ²
精度	1R
メモリー容量	約5,000点
出力	RS232C
電源	単三乾電池6本(約50時間使用)
使用温度	0°C~50°C
寸法・重量	326 × 295 × 105mm 3kg

表示装置の機能と設定

操作キーとその機能



ON/OFFボタン



カーソル上側移動
又は、数字の変更



プリント又は、
データの記憶



カーソル左側移動



メニュー項目の表示



カーソル右側移動



メニュー項目の開始
又は、リセット

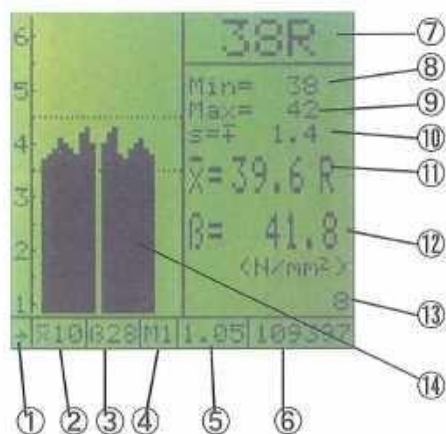


カーソル下側移動
又は、数字の変更
又は、数値のクリア



メニュー項目の終了
又は、測定を終了

画面表示



① 打撃方向

② 測定回数設定

③ 換算式

④ 異常値の削除設定

⑤ 形状係数

⑥ 測定場所No.

⑦ 反発値

⑧ 最小値

⑨ 最大値

⑩ 標準偏差

⑪ 累計平均

⑫ 推定強度

⑬ 測定回数

⑭ 棒グラフ

接続方法

ディスプレイとLEMOケーブルの接続は、お互いの赤いマークの位置を合わせて差し込みます。LEMOケーブルには方向性がないので、どちら側を差し込んで構いません。



本体とLEMOケーブルの接続も同様に、お互いの赤いマークの位置を合わせて差し込みます。

※ケーブルの抜き差しは3番目の写真のように、凹凸部をもって行って下さい。



本体とLEMOケーブルの接続も同様に、お互いの赤いマークの位置を合わせて差し込みます。

※ケーブルの抜き差しは3番目の写真のように、凹凸部をもって行って下さい。



シュミットハンマーのセッティングおよび収納方法

※ セッティング時は上からの順序で

※ 収納時は下からの順序で(赤文字の順序で)



1. プッシュボタンを固定しているテープをはがす
3. シールでプッシュボタンを固定する



2. シュミットハンマーを床などに軽く押し込む
2. 床に押し込み反発させ、その状態のままプッシュボタンを押し込む



3. 先端のプランジャーが伸びて準備完了
1. シュミットハンマーを堅い床にあてる

測定画面からMENU画面へはMENUキーを押す。画面が図-1⇒図-3へ。

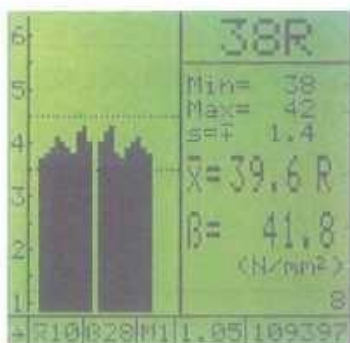


図-1

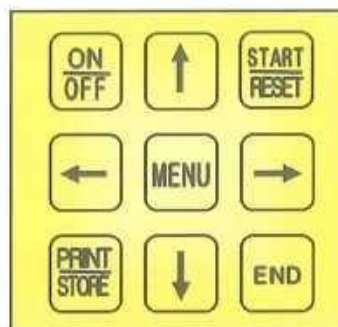


図-2

1. 打撃方向の設定

打撃する角度を設定し、自動的に角度補正させる設定です。

MENU画面から↑、↓でダゲキホウコウにカーソルを合わせてSTARTキーを押す。

下記の5方向から選択する。

選択は→、←で。

*テストアンビルでの精度確認時は**下向き**に設定する。

MENU、ENDキーで決定。



図-3

2. 平均値の設定

何回の平均値を代表値とするか設定します。

MENU画面のハイキンにカーソルを合わせて

STARTキーを押す。図-5が表示されます。

↑、↓の方向キーで任意の回数が設定できます。

平均値は土木学会等の**20回**が一般的ですが、事業主によって回数は異なるので、事業主に確認する。



図-5



図-4

Median: 設定した回数の中値を代表値とする方法。

0: 設定OFF

1: 設定ON

3. 測定場所No. の設定

測定する場所のNo. を登録します。

MENU画面のソクテイバシヨNo. にカーソルを合わせてSTARTキーを押す。図-7が表示されます。アルファベットで10文字、数字で4桁の番号を↑、↓の方向キーで設定する。桁数は→、←の方向キーで移動。

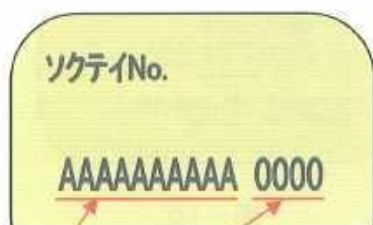


図-7

* 現場名等をアルファベットで入力

* 下1ケタの数字は、測定回数終了後に自動的に繰り上がっていきます。

EX) $\bar{X}=20$ の場合、20回の打撃後、0001⇒0002。

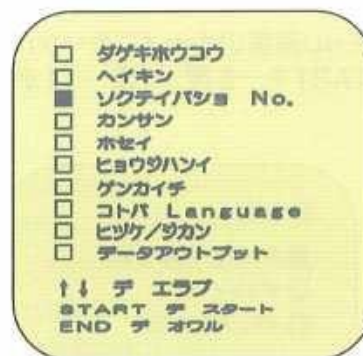


図-6

4. 換算の設定

強度推定式の選択、設定および換算単位の選択。

MENU画面のカンサンにカーソルを合わせてSTARTキーを押す。図-9が表示されます。

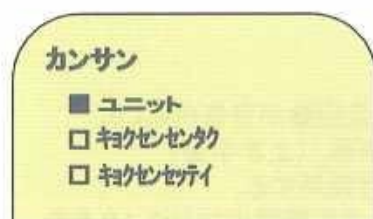


図-9

■ ユニット

Mpa

psi

kg/cm²

上記の4つから換算単位を選択。

通常はSI単位のN/mm²を使用す



図-8

■ キョクセンセンタク

1: 0.0000R2+0.00R+0.0

2:

⋮

■ キョクセンセツテイ

換算式を3式まで登録できます。

Nr: に1~3を選択。

一般的に使用しない機能のため設定不要。

5. 補正の設定

各補正係数を設定、選択。

MENU画面のホセイにカーソルを合わせて
STARTキーを押す。図-11が表示されます。

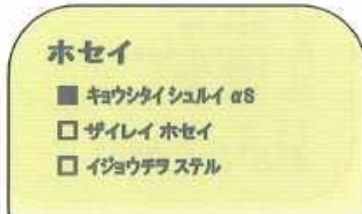


図-11



図-10

■ キョウシタイノシュレイ

- 1.00 ヘンスウ
- 0.95 200/200/200
- 1.00 150/150/150
- 0.81 dia 150/300

構造物の場合は1.00の設定で。
0.80~1.20まで変更可能。

■ ザイレイ ホセイ

$\alpha t =$ $d =$ mm

材令28日が基本で1.00
それ以外の材令補正係数は取説参照。

中性化深さを入力。0~6mmまで。
新設構造部や化粧されているコンクリート等には
使用しない。
通常は0設定。

■ イジョウチラステル

- 0 MO: 削除なし
- M1 M1: 最大値、最小値をカット。ただし、測定回数が最低6回より。
- M3 M3: 平均値の±20%以上の反発値を削除。(土木学会)
- MX $m = 0$ MX: 平均値に近い値を設定した個数だけ採用する。
0~9まで選択できます。ただし、 $m=3$ の時は少なくとも12点の
測定が必要。

6. 表示範囲の設定

画面に表示する棒グラフの範囲を設定。

MENU画面のヒョウジハンイにカーソルを合わせて
STARTキーを押す。図-13が表示されます。

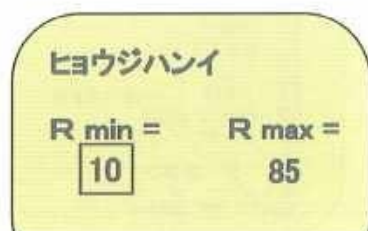


図-13



図-12

7. 限界値の設定

画面に破線にて上限ライン、下限ラインを表示させる設定。

MENU画面のゲンカイチにカーソルを合わせて
STARTキーを押す。図-15が表示されます。

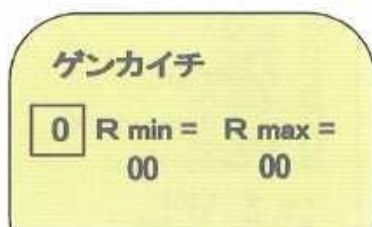


図-15



図-14

8. 言語の設定

表示する言語を選択。

MENU画面のコトバにカーソルを合わせて
STARTキーを押す。

多くの言語が登録されていますが、
を選択してください。

Japan



図-16

9. 日付/時間の設定

プリントアウト時に印字される日付と時間を設定。

MENU画面のヒツケ/ジカンにカーソルを合わせて
STARTキーを押す。



図-18

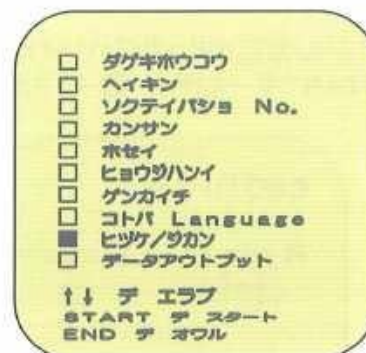


図-17

→、←、↑、↓で Y、M、D、h、m、YMD を選択し、現在時刻に合わせてください。

10. データ処理方法

記憶されたデータの表示、転送、消去。

MENU画面のデータアウトプットにカーソルを合わせて
STARTキーを押す。

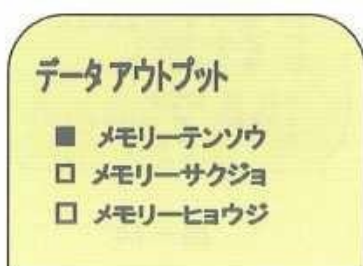


図-20



図-19

- メモリーテンソウ
CDをPCにインストール後、データ転送可。詳細は取扱説明書参照。
- メモリーサクジヨ
記憶しているデータを一括消去します。
個々のデータの消去はできません。
- メモリーヒョウジ
測定したデータの表示。

